

令和6年度障がい福祉分野の I C T 導入モデル事業 事例報告

＜法人名＞ 社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会
＜事業所名＞ 障害者支援施設北村園

事業所概要

サービス種別 (複数ある場合は主たるサービス)	施設入所支援・生活介護
所在地	大阪市大正区北村3丁目5番10号
職員数 () 内は常勤換算数	54人(43人)
事業所の特徴	重度障害があり、自宅での暮らしが難しい方に利用頂いています。生活支援・看護・リハビリ・レクリエーション等を通じ、心地よく過ごして頂けるようサポートしています。「こんなふうに暮らしたい」「これをやってみたい」想いを大切に、一人ひとりの願いを叶えるよう寄りそった支援を心がけています。ICTや福祉機器も積極的に取り入れ、業務効率化により、利用者さんと向き合う時間をしっかりととり、よりよいサービスを目指しています。

I C T 導入の背景・目的

➤ 導入前の状況

- ①服薬ミスがなかなか減らない（利用者間違い、日付・時間帯間違い、服薬忘れ）
- ②薬の事前チェックに時間がかかる（薬局からの納品、対象利用者、服薬回数・時間帯）
- ③服薬時のチェック（二人で確認）は、手間と時間がかかり、他の業務に影響が出る
- ④確認手順が多いため、新人、外国人のスタッフが慣れるまで時間がかかり、担当業務に偏りがある

➤ 導入の目的（上記への対応）

- ①服薬手順をシステム化することにより、服薬ミスを減らしたい
- ②システムを通じて薬局と繋がることで、薬の管理、情報の共有、業務の効率化を図りたい
- ③確認業務が効率化（QRコードによる確認）されることで、利用者支援に集中できる環境を整えたい
- ④シンプルな確認手順により、誰でも安心して確実に服薬対応ができるようにしたい
- ⑤服薬情報が一元管理できることで、誤薬や記録の抜けや服薬忘れ等を防ぎたい

導入するICTの検討

➤ 重視したこと

- 服薬ミスを防ぐことができる
- 簡単に使え複雑な操作を必要としない
- 服薬情報が一元管理管理できる
- 現状の環境を活かせる（Wifi環境、デバイス（iPhone））

➤ 導入した I C T

- 服やっくん（株式会社 ノアコンツェル）



実施準備

➤ 職場内の研修

- 服やっくんはシンプルな操作性が特長であり、マニュアル1枚と口頭での申し送りのみで使用を開始できた。特別な研修を必要とせず、職員の業務を妨げることなくスムーズな立ち上げが可能だった。

➤ 利用者へ協力依頼

- 服薬時の最終確認画面に利用者の写真を表示し、本人確認を行っている。
- 利用者の皆さまには写真撮影へのご協力をお願いした。

効果検証

	導入前（年間件数）	導入後（3ヶ月間の件数）
誤薬（日付、時間帯間違い）	6件	0件
服薬忘れ	10件	0件

- 人的確認に加え、システム導入することでアラートが鳴り、誤薬を防止することができた。
- 安全管理が強化され、事故報告やインシデントの記録が減った。
- 服薬時のチェック時間が減り、業務の負担軽減、利用者と向き合う時間の確保に繋がった。
- シンプルな業務手順により、誰でも安心して確実に服薬対応ができるようになった。
- 情報を一元管理、確認できることにより、服薬支援が適切なタイミングで出来ていないことが判明。業務の流れを見直し、利用者本位の支援に改善するきっかけとなった。